



《遠足》木下今朝義・1996年・油彩、キャンパス・一般社団法人金陽会蔵・45.5×53.0cm

九州大学大学院芸術工学研究院藤原恵洋研究室 主催

## 〈光の絵画〉を通して自由の値を考える

蔵座江美

一般社団法人ヒューマンライツふくおか 理事・学芸員

×

藤原恵洋

九州大学大学院教授・工学博士

入場無料

各会場は三密対策を行います。ご参集にはマスク着用をお願いします。

第1回

6/27 (土) 15:00 ~17:00

天草のすまいとまちなみ研究室  
旧梶原産婦人科病院 2階

天草市古川町 1-8

第2回

7/18 (土) 15:00 ~17:00

牛深町加世浦公民館  
天草市牛深町 2899

13:00~14:30 加世浦町並み探索  
12:30 加世浦公民館 集合

第3回

8/29 (土) 15:00 ~17:00

苓北町 町民総合センター  
中会議室

天草郡苓北町志岐 1220-2

第4回

9/26 (土) 15:00 ~17:00

熊本県立天草青年の家 研修室

上天草市松島町合津 5500 番地

【天草から希望者参加による現地フィールドワーク】国立療養所菊池恵楓園スタディツアー計画（今後のコロナ感染予防対策に応じて時期設定を調整中）

## オンラインでも参加できます。Zoom 参加のお申込みはチラシ裏面へ

本公開講座は三密防止をはじめコロナ感染防止対策を慎重に施しながら開講します。そのうえで、当日 Zoom にてオンラインでの参加を受け付けております。ご希望の方はチラシ裏面をご確認ください。 ※ 文字通訳（UD トーク使用）を行う予定です。

2020年秋季の「ふるさと、天草に帰るー菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展」へ向け、開催地天草におけるハンセン病理解と〈光の絵画〉への共感を深めるため公開講座「〈光の絵画〉を通して自由の値を考える」を4回にわたって開催します。これまで金陽会作品群の発掘・調査と保存活動に取り組んできた蔵座江美さんが独自の調査を通して明らかにしてきた作品の成立背景や分析・評価、さらには作者の物語や社会の様相を含めた成果を語ります。

## ふるさと、天草に帰る とは ...

全国に13箇所開設された国立ハンセン病療養所の中、最大規模であった菊池恵楓園は熊本県内の合志市に位置します。その中で1953(昭和28)年に発足した絵画クラブ金陽会は一人の看護師の呼びかけにより始まり、入所者が集い金曜日に活動していたことから、太陽の陽をとって名付けられたものです。特定の師を持たずに独学と相互研鑽を通し描きあう場として存続。主だった展覧会の足跡としては、1980(昭和55)年、熊日画廊(熊本市)で金陽会展を開催、1998年まで2年に一度開催を続け、1999(平成11)年、熊本県立美術館分館(熊本市)において「吉山安彦個展」開催、2002(平成14)年に熊本市現代美術館が開所記念展としてATTITUDE2002展を開催して以来、2003(平成15)年「光の絵画 VOL.1」、2005(平成17)年「光の絵画 VOL.2」、2007(平成19)年「ATTITUDE2007 人間の家ー真に歓喜に値するもの」、2010(平成22)年「光の絵画 VOL.3」、2015(平成27)年「ここから 吉山安彦展」を同館で継続的に開催してきました。同館主任学芸員だった蔵座江美さんが独立後、金陽会作品調査を展開することにより確認される作品数が900点を超えることが判明、さらに各地に眠った作品の存在が浮き彫りにされつつあります。国内の療養所はもとより世界的に見ても貴重な作品群といえるのです。

1907(明治40)年制定「癩予防二関スル法律」、1930(昭和6)年改正「癩予防法」、戦後1953(昭和28)年「らい予防法」と長年存続した隔離政策に基づき、金陽会の中には故郷に帰ることなく菊池恵楓園で一生を終えられたメンバーもおられ、残された絵画作品はメンバーの内なる思いや故郷追慕の念を表しながら人生を振りかえる生きた証といえるものです。

こうした蔵座江美さんによる地道な金陽会作品調査の成果から2018(平成30)年春季、「ふるさと、奄美に帰る」展が奄美大島の三会場にわたり開催されることとなりました。同島出身のメンバーの作品を本人に変わり里帰りさせたいという蔵座さんの熱い思いにより実現されたものでしたが、作品展示が見事に人を引き寄せ合う磁場となり同島療養所における小笠原医師と田中一村との邂逅やご家族やご親戚のみならずとの偶発的な出会いが僥倖を生み出したのです。

本展覧会は、こうした金陽会里帰り展の第二弾となるものです。天草出身のメンバーによる作品を中心に、療養所内で時間をともにしてきた他のメンバーの作品も紹介していきます。いかなる境遇でも希望を見出す人間の崇高な強さと歩みを、これらの絵画から感じていただければ幸いです。

### 蔵座江美 ぞうざ えみ

一般社団法人ヒューマンライツふくおか 理事・学芸員

熊本市現代美術館在職中に国立療養所菊池恵楓園入所者と出会い、以降、様々な気づきを与えられる。2015年より一般社団法人ヒューマンライツふくおかの理事として、菊池恵楓園絵画クラブ金陽会の作品調査、保存活動を始める。また、松丘保養園、長島愛生園、星塚敬愛園、奄美和光園でも調査を行い、記録を残すために奔走中。「いのちのあかし展」(2016)、「ふるさと、奄美に帰る」、「知らない」を親に行こう。(2018)「えとことば」、「ふるさと、奄美に帰る 東京編」(2019)など、各地で金陽会の絵画展を開催している。

### 藤原恵洋 ふじはら けいよう

九州大学大学院教授・工学博士

九州大学大学院教授。建築史家・工学博士(東京大学)・藝術学修士(東京藝術大学)・まちづくりオルガナイザー・文化審議会専門委員(世界文化遺産部会)。元ライデン大学日本学研究所客員教授。建築から世界遺産、芸術文化、コミュニティまで幅広い分野で活躍。国内はもとより83か国に及ぶ世界を実際に訪れ、文化芸術活動と社会との相互作用について調査し過去・今・近未来における芸術文化環境を先験的に研究。金陽会作品調査ボランティア。本公開講座では金陽会の絵画作品群を美術史の大きな流れの中で意味づけていく。

## オンラインにて参加をご希望の方は、お申し込みをお願いします。

本公開講座は三密防止をはじめコロナ感染防止対策を慎重にしながら開講します。

そのうえで、当日Zoomにてオンラインでの参加を受け付けております。

ご希望の方は、右のQRコードからお申し込みください。

お申し込みいただいた方に、公開講座前日までに開催Zoomのリンクをお知らせいたします。

#### 注意事項

- ・通信の状況によっては、接続が弱い状態もございます。あらかじめご了承ください。
- ・公開講座動画の録画、撮影等はご遠慮ください。
- ・UDトークによる字幕サポートをご希望の方は、お申し込み時にその旨をご選択ください。



Zoom 参加申込はこちらから ▲

#### 主催

九州大学大学院芸術工学研究院藤原恵洋研究室

〒815-8540 福岡市南区塩原 4-9-1 九州大学大橋キャンパス 5号館 5階

TEL : 092-553-4529 E-mail : keiyo@design.kyushu-u.ac.jp

担当 高口葵

TEL : 080-6107-0198

E-mail : kinyoukaieuendan@gmail.com

#### 協力

一般社団法人ヒューマンライツふくおか、金陽会応援団

「ふるさと、天草に帰るー菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展」実行委員会